



燃えるごみとして捨てていませんか・・・

# 雑がみリサイクル

# はじめませんか。

「雑がみ」とは、図1にあるように、お菓子の紙箱やトイレットペーパーの芯など、普段の生活でよく見かけるものです。一部を除き、紙としてリサイクルすることは可能ですが、多くの家庭で燃えるごみとして捨てられています。

市では、雑がみリサイクルを推進させるため、「三郷小学校」やリサイクルの拠点施設「ふれあいエコプラザ」と連携し、取り組みを進めてきました。その活動を紹介いたします。家庭や職場など、身近なところから雑がみリサイクルをはじめませんか。

□問い合わせ 環境課 ☎ 26-2111 (内線 208)



図1 (提供: 公益財団法人 古紙再生促進センター)

主な雑がみの例					
投込チラシ	包装紙	紙袋	封筒	ティッシュ・お菓子・おもちゃなどの紙箱	
はがき	ダイレクトメール	学校配付のプリント	ノート	カレンダー	トイレットペーパーの芯



▲利用を呼びかける吉田純一さん

リサイクルを推進する施設、ふれあいエコプラザでは、紙のほか、ペットボトルやビン、リサイクル料金がからない家電製品などを集めて資源にしています。「ふれあいエコプラザでも、雑がみの回収に力を入れています」と語ってくれたのは、ふれあいエコプラザで働く吉田純一さん。「以前から可燃ごみの中にある雑がみが気になっていました。実際に調査したところ、多い家庭では可燃ごみの袋の中の約30%が雑がみでした。雑がみはごみではなく資源。ごみとして燃やすのではなく、資源の節約やごみ袋の節約にも



**ふれあいエコプラザ**  
 資源ごみの回収、環境学習、不用品の展示販売などを行っています。  
 □ところ 長島町正家1015番地3  
 □利用時間 午前9時～午後4時  
 □休館日 月・火曜日、年末年始  
 □ウェブサイト <http://enaecoplaza.com/>  
 □連絡先 ☎ 25-1515

皆さんの家庭で一度、燃えるごみの中にある雑がみにも目を向けていただき、資源としての雑がみのリサイクルに協力ください。

つながります。三郷小学校のように学校で取り組みが進めば、子どもを通じて各家庭にも広がり、家庭でもごみの量が減ります。ごみ処理施設も雑がみの分の費用が少なくなるので、どんどん広がって欲しいです。ふれあいエコプラザは常設の回収施設なので、積極的に利用してください」と話しました。

## リポート② 資源としての「雑がみ」に目を向けて



▲三郷小学校



▲全校集会で説明し、取り組みを広げる



▲取り組みについて話す宮地さん(左)と町野さん(右)

三郷小学校では、昨年の10月から、「燃えるごみ」として捨てていたトイレットペーパーの芯や、図工の時間などで出た小さな紙の切れ端などの雑がみを、全校で回収する取り組みを始めました。題して「みんなが笑顔になる魔法のゴミ作戦!」。12月の集団資源回収までの間に、校内だけで紙袋15袋の雑がみを回収しました。

これまで廃棄していたものが、リサイクルにより学校への収入へと価値を変えたことになりました。雑がみの回収を行ってみて「今

までごみとしていた紙の切れ端が資源になる。一人一人が意識することが大切。地域内でも広がって欲しい」と話すのは5年生の町野陽愛さん。6年生の宮地健正さんからは「皆が意識して雑がみを集めるようになったので、掃除の時のごみが目に見えて減った。家でもやってみたら、すぐに回収袋が雑がみで一杯になった」という話も聞くことができました。

保護者からも「家での雑がみ回収を、子どもたちが積極的にしてくれるようになりたい。これからも家庭で続けていきたい」という意見が寄せられました。

週に3から5袋出ていたごみが、1袋弱に減りました。ごみが資源になることに気づいた児童たちは、取り組み前と比べ掃除も楽しくやっています。この取り組みは「量」を集めるということよりも、ごみが資源になる気付きが大きいと思います。「ごみを減らす」ことが「良いことをした」と捉える児童が多く、教師としても子どもは役に立つことをしたいと思っているんだと改めて気付かせてもらいました。学校で取り組むことによって、子どもがいる家庭にも浸透しつつあります。こうした活動には即効性はなくとも、地域の方々の意識を次第に変える力になっていくはず。この取り組みを継続し、地域にもっと浸透させたいです。



取り組みを担当した 西尾 江美 先生

## リポート① 「みんなが笑顔になる魔法のゴミ作戦」

### リポート① 三郷小学校